

中級日本語学習者が望む学習とは何か

－ 高等教育機関におけるアンケート調査－

内丸 裕佳子

What Do Learners Expect to Study
in Intermediate-level Japanese Language Class?:
A Survey in a Higher Education Institution
Yukako UCHIMARU

【要旨】

本稿は、アンケート調査を通じて高等教育機関で学ぶ学習者の中級レベルに対する学習ニーズを明らかにすることを目的とする。アンケート調査結果は4点にまとめられる。(1)教科書の説明および内容：初級に比べ評価が低くなる。母語による解説が望まれている。(2)学習項目：アカデミックな日本語、日常生活での日本語の両方に対するニーズがある。会話学習への要望が最も多く、次いで文法・文型、語彙が同数だった。(3)教え方に対する要望：①既習表現と比較しながら説明する。②文型・表現は共通する意味・用法でまとめて効率的に教える。③文型・語彙の硬さ・柔らかさの区別を示す。(4)教室活動に対する要望：短い会話練習、作文、ゲーム要素を取り入れた練習も増やす。

キーワード：中級プログラム、学習ニーズ、学習項目、教え方、教室活動

1. はじめに

本稿の目的は、アンケート調査を通じて、高等教育機関で中級レベルの日本語を学ぶ学習者がどのような学習項目をどのように学ぶことを必要としているかを把握し、今後の日本語コースカリキュラムを編成していく上での基礎資料にすることである。

2. 調査対象

調査対象は2011年12月の時点で岡山大学に在籍し、中級あるいは上級の日本語コースで学ぶ留学生36名である。中級はレベルによって中級1、中級2の2つに分けて調査を行った。中級1では『コンテンツとマルチメディアで学ぶ上級へのとびら』、中級2では『ニューアプローチ中上級日本語完成編』を授業で使用している。上級レベルの学生は大半が日本あるいは自国の日本語学校、高等教育機関、予備教育機関で日本語を学び、正規に学部入学した学生である。【表1】に中級1、中級2、上級レベルでの調査協力者の内訳を示す。

【表1：調査協力者の内訳】

| | 短期交換留学生 | 学部入学前 予備教育留学生 | 学部生 | 研究生あるいは 大学院生 | 合計 |
|-----|-----------------------------------|------------------|------------------------------------|-------------------------------------|----|
| 中級1 | 5名 アメリカ3 フランス2 | 2名 韓国2 | 0名 | 3名 中国2 ミャンマー ⁽¹⁾ 1 | 10 |
| 中級2 | 3名 オーストラリア1 トルコ1 フィンランド1 | 2名 韓国2 | 0名 | 7名 中国7 | 12 |
| 上級 | 3名 韓国3 | 1名 韓国1 | 8名 中国5 韓国1 インド1 マレーシア1 | 2名 中国1 台湾1 | 14 |
| 合計 | 11 | 5 | 8 | 12 | 36 |

3. 調査方法

アンケート調査用紙は日本語版を作成し、それを中国語、韓国語、英語に翻訳した⁽²⁾。留学生は中国語、韓国語、英語のうち、希望する言語の調査用紙を選び回答した。質問数は5段階評価の質問27問、回答選択質問（複数選択可）5問、自由記述質問3問である。5段階評価の質問のうち9問は、初級レベルの授業、教科書、教師の教え方に関する内容である。自由記述質問では学習者は母語や日本語で回答している。中級1、中級2の学習者は調査時の学習について感じていること、上級クラスの学習者は大学、日本語学校などでの中級レベルの学習について感じたことを回答している。

4. 調査結果および考察

4. 1 初級との比較

学習者には以下9点について、初級・中級それぞれのレベルを5段階評価で回答するよう指示した。5評価は「強く思う」、1評価は「思わない」である。

- (1) 自分の力が伸びていると感じるか。
- (2) 授業は面白いか。
- (3) 教師の教え方に満足しているか。
- (4) 教師の教え方はわかりやすいか。
- (5) 教科書の説明はわかりやすいか。
- (6) 教科書の内容は面白いか。
- (7) 教科書の文法や文型の練習問題は面白いか。
- (8) 授業の進み方は適切か。
- (9) 勉強しなければならないことが多いと感じているか。

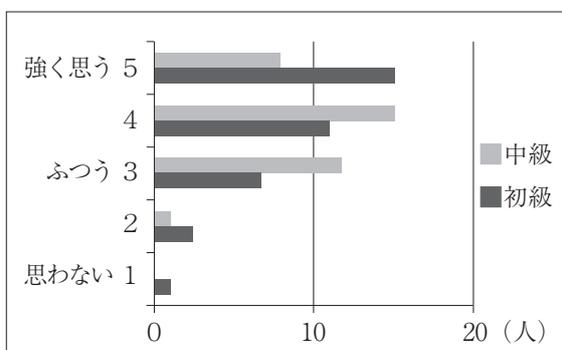
初級の学習に対する学習者の意見と、中級のそれとを比較した結果を【表2】、および【図1】～【図9】に示す。

【表2 初級レベルおよび中級レベルに対する評価の違い】

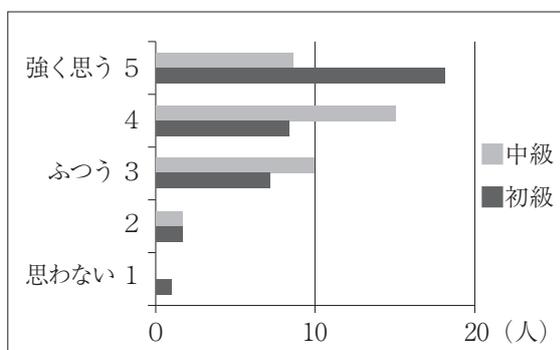
| | 5 評価 | | 4 評価 | | 3 評価 | |
|---------------|------|-----|------|-----|------|-----|
| | 初級 | 中級 | 初級 | 中級 | 初級 | 中級 |
| 自分の力は伸びている | 42% | 22% | 31% | 42% | 17% | 33% |
| 授業は面白い | 50% | 25% | 22% | 42% | 19% | 28% |
| 教科書の内容は面白い | 25% | 6% | 33% | 33% | 31% | 39% |
| 教科書の練習問題は面白い | 28% | 14% | 22% | 22% | 33% | 44% |
| 教科書の説明はわかりやすい | 44% | 11% | 28% | 36% | 17% | 39% |
| 教師の教え方に満足している | 53% | 36% | 25% | 39% | 14% | 19% |
| 教師の教え方はわかりやすい | 50% | 33% | 33% | 42% | 8% | 19% |
| 進み方はちょうどいい | 36% | 11% | 22% | 31% | 25% | 47% |
| 学習項目が多い | 50% | 50% | 22% | 31% | 19% | 11% |

図の棒グラフは上が中級, 下が初級の結果である。

【図1 自分の力が伸びている】



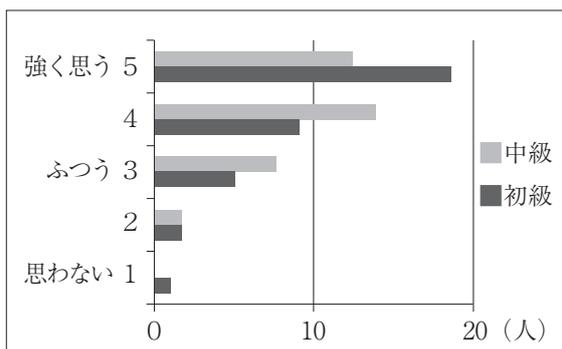
【図2 授業は面白い】



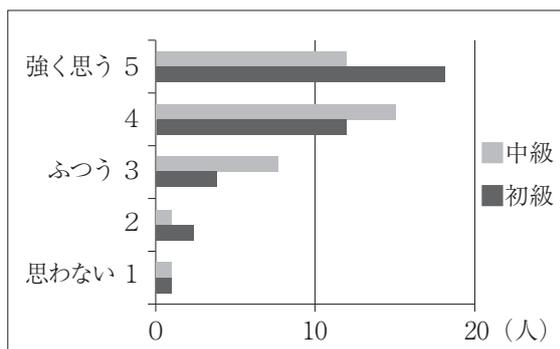
【図1】から、中級レベルに達すると自分の力の伸びが初級ほどではないと感じていることがわかる。この結果に対し、調査用紙の質問11で「中級レベルになって勉強の仕方がわからなくなった」という項目を加えているが、平均値2.97、標準偏差1.3であり、中級の勉強の仕方について強い戸惑いを感じているわけではないといえる。授業内容、学習項目、教え方について目を向けてみると、授業全体に対する評価も初級より落ちていることが【図2】からわかり、中級では教材および教室活動の進め方に問題があることが予測される。

【図3】【図4】は教師の教え方に対する評価である。中級になると、初級に比べて満足度が低くなり、わかりにくいと感じていることが窺える。

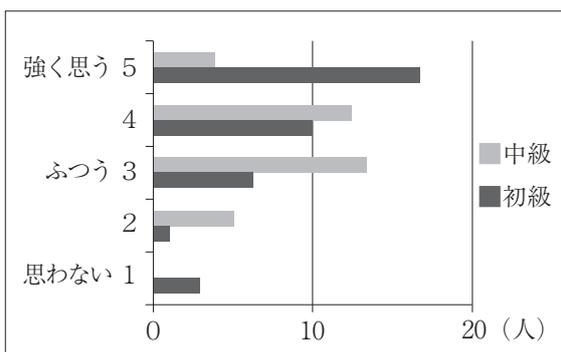
【図3 教師の教え方に満足している】



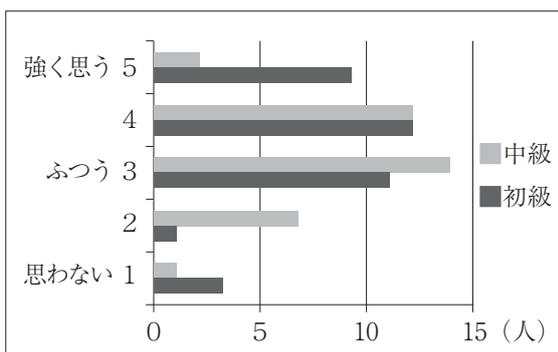
【図4 教師の教え方はわかりやすい】



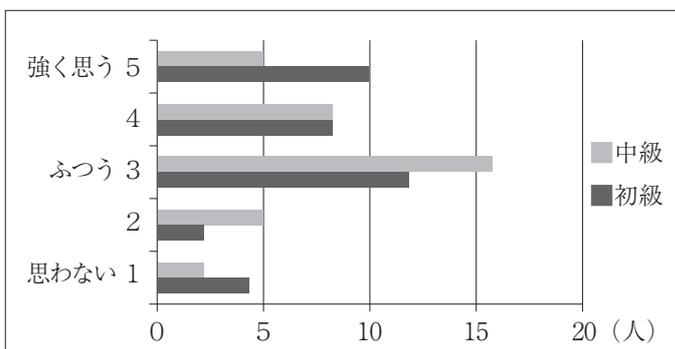
【図5 教科書の説明はわかりやすい】



【図6 教科書の内容はおもしろい】

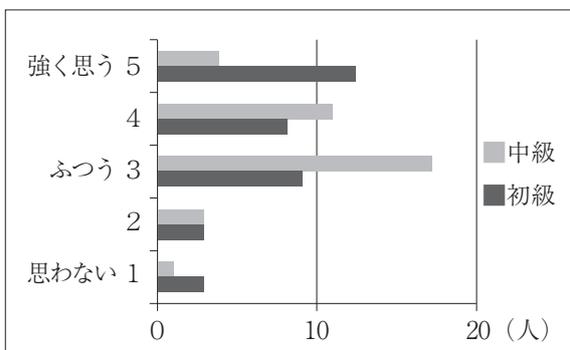


【図7 教科書の文法や文型の練習問題は面白い】

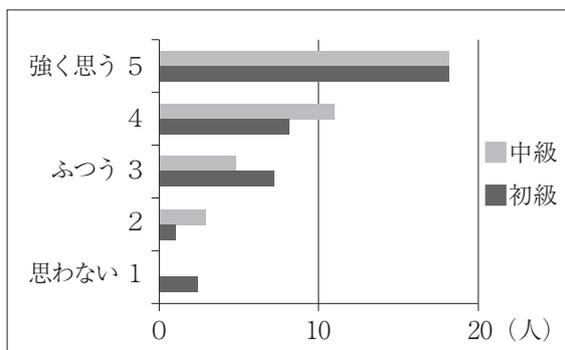


【図5】-【図7】は教科書に対する評価である。初級の方が教科書の説明もわかりやすく、内容や練習問題も面白いと感じていることがわかる。中級での文型の扱いやその解説、内容に工夫が必要である。自由記述の質問調査においても「文法は初級より難しくなるから、もっと詳しく説明してもらいたい。(上級学習者)」、「文法の説明が一人で理解しにくいことがある。(中級1学習者)」、「より多くの図が与えられると良い。(上級学習者)」、「自分の国の言葉で文法の説明があるといい。(中級1・中級2学習者)」という回答があり、中級レベルの教科書の内容および練習問題について検討が必要だといえる。

【図8 授業の進み方は適切だ】



【図9 勉強しなければならないことが多い】



【図9】だが、中級レベルに関する質問は「中級レベルでは、初級レベルより勉強しなければならないことが多い」とある。【図9】の結果を見ると、初級レベルも中級レベルも5評価は50%で同数だが、中級では4評価が31%と初級より多い。「初級より勉強しなければならない

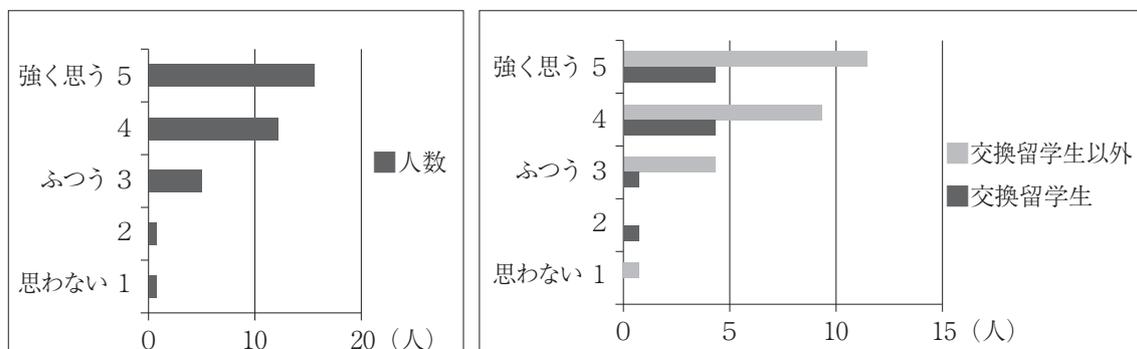
ないことが多いと思う」という質問を考慮すると、多くの学生が中級になって学習量の多さを負担に感じていることが明らかになる。それは授業の進み方にも反映しており、教師が学習項目の多さをこなすために、授業の進み方が不適切になっているといえる⁽³⁾。

多様なニーズを持つ学習者が増えつつあるなか、果たして従来型の中級レベルの学習項目が適切なのか。野田 (2005), 小林 (2005, 2009) が指摘するように日本語教育における文法観, 文法教育観を学習者のニーズを考慮して問い直す必要があるだろう。学習者の自由記述に「新しい文法をどんどん勉強していますから、古い文法を忘れちゃいます」という回答があったが、この回答は、学習者に必要のない事項を教えているのではないか、学習者のニーズに合った学習項目を選定しているかと我々に問いかけているともいえる。

4. 2 学習項目について

【図10】-【図14】は学習項目に関する質問とその結果である。【図10】では以下の質問を行った。「自分の専門分野について講義を聴いたり、文献を読んだり、レポートを書いたり、議論や発表をしたりするためのアカデミックな日本語を勉強したい。」この5段階評価の結果が【図10】である。44%の学生が5評価, 36%の学生が4評価で回答している。これらの結果を交換留学生10名と、交換留学生以外26名で比較したのが【図11】である。ここで注目したいのは、半年または1年間日本に滞在する交換留学生10名の回答で、5評価4名, 4評価4名という結果である。高等教育機関に在籍し、上級までの日本語習得を視野に入れている交換留学生も、アカデミックな日本語の学習を望んでいることは興味深い結果である。

【図10 アカデミックな日本語を勉強したい】 【図11 交換留学生との比較】



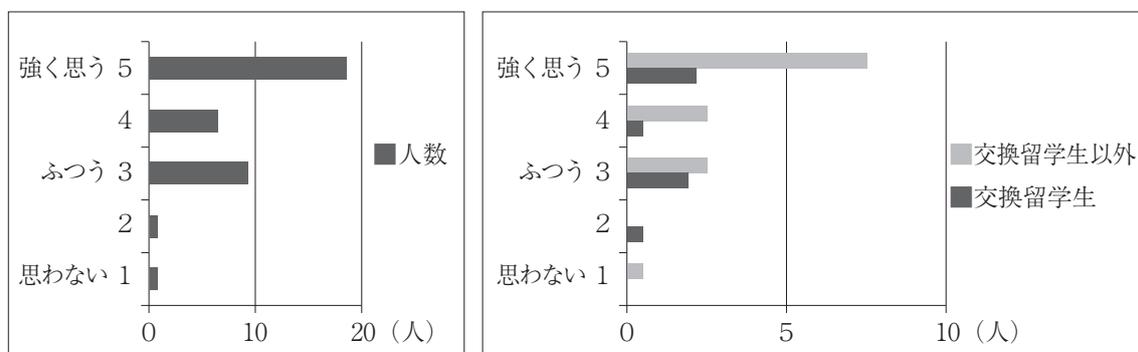
アカデミックな場面において今すぐに必要としている日本語は何かという質問調査も行った。13の項目を提示し、複数回答可とした。以下はその結果である。

- ① レポートを書く (20名) / あるテーマについて授業で発言する (20名)
- ② 授業中に思ったことを発言する (18名)
- ③ 講義を聴く (17名) / 講義を聴きながらノートを取る (17名) / 授業で必要な本を読む (17名)
- ④ あるテーマについてクラスメートと議論する (16名)
- ⑤ 学会で発表する (15名)
- ⑥ 論文を書く (14名)
- ⑦ 実験結果や調査データについて説明する (12名)

- ⑧読んだ資料の内容を説明する (10名)
- ⑨授業中に先生に質問する (9名)
- ⑩授業用のレジメを作る (8名)

【図12】での質問は「専門分野以外での日常生活の日本語を勉強したい」である。【図13】は【図12】の結果を交換留学生10名と、交換留学生以外の26名で比較した結果である。アカデミックな日本語とほぼ同じくらいの割合で日常生活での日本語学習を希望していることがわかる。さらに、交換留学生と、学部生・研究生・大学院生の結果を比べてみて面白いのは、後者の方が日常生活での日本語学習の必要性を強く感じているのに対し、交換留学生では5評価4名だけでなく、3評価も4名いたことである。交換留学生は日常生活において日本語で話す機会が少ないのに対し、後者は授業以外の場面でも日本語で話すことが要求されている状況が影響しているかもしれない。

【図12 日常生活の日本語を勉強したい】 【図13 交換留学生との比較】

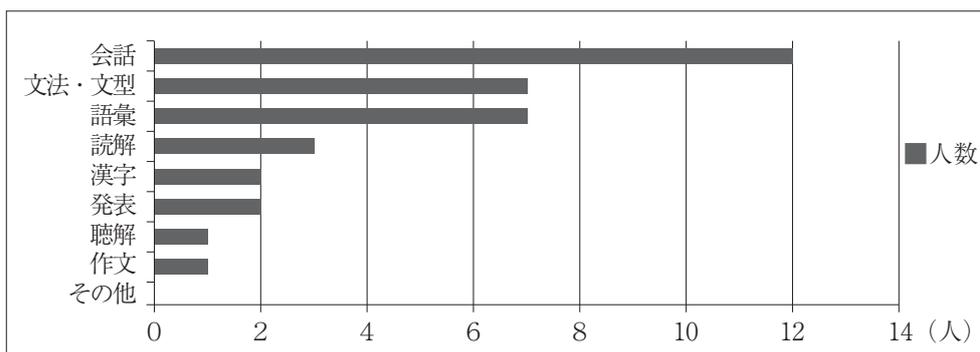


日常生活において今すぐに必要としている日本語は何かという質問調査も行った。12の項目を提示し、複数回答可とした。以下はその結果である。

- ①先生と話す (22名)
- ②テレビ・映画・DVDを見る (19名)
- ③クラスメートと話す (18名) / 自分の好きな本や雑誌を読む (18名)
- ④インターネットで調べたり、情報を読んだりする (15名)
- ⑤電話をかける (14名)
- ⑥e-mailを書く (12名) / 新聞を読む (12名)
- ⑦大学の手続きについて事務の人と話す (10名) / ニュースを聞く (10名)
- ⑧アルバイト先の人と話す (9名)
- ⑨近所の人と話す (6名)

中級レベルの日本語の授業で取り上げてもらいたい学習は何かという質問の結果が【図14】である。【図14】に挙げている学習項目は複数回答可とした。コミュニケーションを図る上で会話は最も重要な要素であり、それを構築する文法・文型、語彙が必要だという認識が見て取れる。【図10】【図12】の結果と合わせて考えると、アカデミックな場面、および日常生活で要求される談話構成とはどのようなものなのか、それらを構築する文法・文型、語彙とは何かを、コーパスなどを通して今後の中級の学習項目として検討する必要があるだろう。

【図14 授業中にしたい学習は何か（複数回答可）】



4. 3 中級レベルでの教え方に対する要望

中級レベルでの教え方について以下6点の質問調査を行った。

- (1) 初級で学んだ表現と中級で学ぶ表現について、形の作り方や意味がどのように違うか、授業で先生に説明してもらいたい。（【図15】参照）
- (2) 中級レベルの文法や文型は、教科書の読解で出てきたものを1つずつ紹介するより、「時を表す表現」「理由を表す表現」のように、共通の意味でまとめて紹介した方が効率的に学習できると思う。（【図16】参照）
- (3) 書き言葉についてどのくらい硬い表現なのか、どのようなジャンルで使われるのか、どのような相手に使えばいいのかなどを、教科書や授業でもっと説明してもらいたい。（【図17】参照）
- (4) 話し言葉についてどのくらい硬い表現なのか、どのようなジャンルで使われるのか、どのような相手に使えばいいのかなどを、教科書や授業でもっと説明してもらいたい。（【図18】参照）
- (5) 読解の練習をする時、その読解問題に関する日本文化や日本事情について、教科書や授業でもっと説明してもらいたい。（【図19】参照）
- (6) 聴解の練習をする時、その聴解問題に関する日本文化や日本事情について、教科書や授業でもっと説明してもらいたい。（【図20】参照）

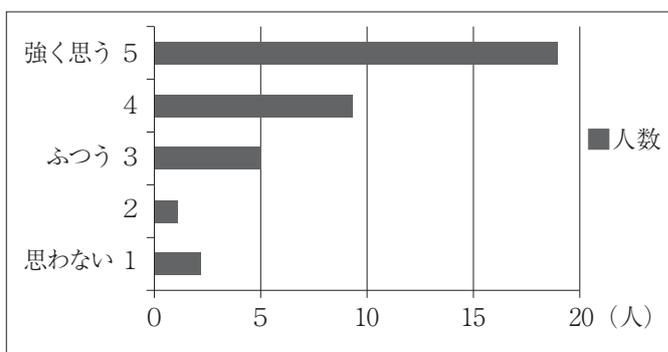
上記(1)(2)の結果が【図15】【図16】である。(1)の平均評価は4.17、標準偏差は1.13で、(2)の平均評価は3.97、標準偏差は1.2だった。(2)は他の質問項目に比べると平均評価も低く、標準偏差1.2と値が高いが、「中級の勉強で一番難しいこと／困っていることは何ですか」という質問調査に対する自由記述で、全回答者の3分の1にあたる12名が文法項目に関して言及している点は注目すべきである。以下、(1)(2)に関連する学習者の記述を挙げる。

- ・類似する文法形式の区別。
- ・習った文法を区別して使うことが難しい。
- ・似ったような言葉の使い分け。どの場合でどれを使うのか難しい。(原文ママ)
- ・文法は初級より難しくなるから、もっと詳しく説明してもらいたい。
- ・「のだ」と「だ」の使い分け。
- ・一つの文型に違う意味を持つこともあるので、使い方がどう違うのかわかりにくい。例えば

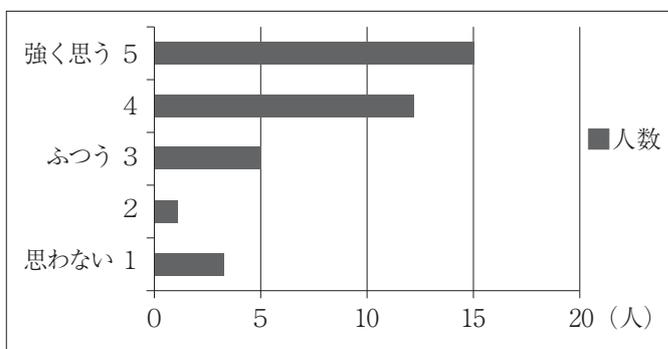
「のに／にもかかわらず」は意味に近いが、ニュアンスがどう違うか区別できない。日本語の勉強において、ニュアンスは難しい問題。人と会話する時「のに」を使えば自然に聞こえるが、「にもかかわらず」を使ったらどうも自然じゃない気がする。会話の時にどんな言葉を使うのが適切かどんな言葉を使うのが不適切かうまくできない。(原文ママ)

- ・正しい日本語で何か書く時、特に長い文を書くとても難しいだと思う。(原文ママ)
- ・「は、が、に、で」など、時々混乱している。どちらがいいがわからなくなる。名詞と動詞の組み合わせ、特定な組み合わせ。(原文ママ)
- ・ごとと文法が難しかった。中級教科書の文章が初級の文章より長くて、文法もいきなり難しくなることを、私にとっては、最初のごろにどうしてもなれていなかった。そして、中級の時、内容が多かったので、先生の説明が非常に簡単になってしまい、文章の意味がよくわからなかった。したがって、中級課程が印象にあまり残っていない。(原文ママ)

【図15 既習表現と比較しながら形や意味の違いを説明してもらいたい】

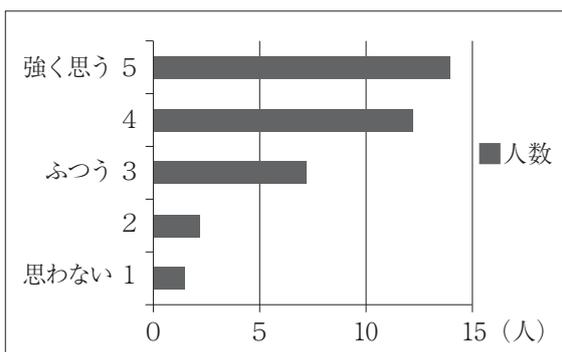


【図16 共通の意味でまとめて文型を紹介した方が効率的に学習できる】

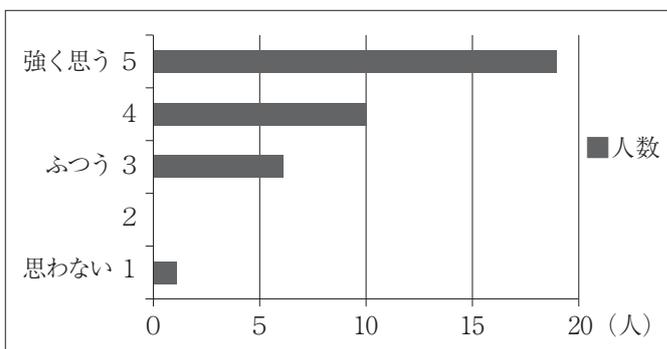


学習対象となる書き言葉、および話し言葉がどのくらい硬い表現なのか、どのようなジャンルで使われるのか、どのような相手に使えばいいのかといった使い分けに関する説明の必要性だが、話し言葉の方がニーズが高い。書き言葉の使い分けに関する説明は、平均評価が4.0、標準偏差が1.04だったが、話し言葉では平均評価4.28、標準偏差0.94であった。会話学習に対するニーズが強かったことを考慮すると、これは当然の結果だといえる。しかし、アカデミックな場面において今すぐに必要としている日本語が「レポートを書くこと」だという事情を考慮すると、書き言葉について類似表現の硬さ・柔らかさの区別を示し、どのような文脈で使用するのが適切かを示していく必要がある。

【図17 書き言葉の使い方に関する説明】

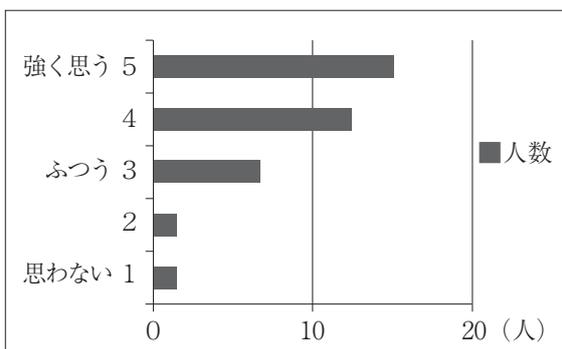


【図18 話し言葉の使い方に関する説明】

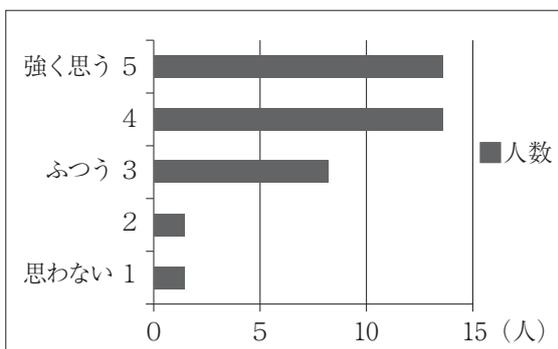


中級レベルで4技能を総合的に学ぶことを目的とする教材では、読解が主となるが、その際に要求される内容スキーマについて調査したのが【図19】である。【図19】に関連して、聴解について調査したのが【図20】である。前者の平均評価は4.11、標準偏差は0.98、後者の平均評価は4.0、標準偏差は0.99であった。読解、聴解いずれにおいても、内容理解には日本文化・日本事情の説明が必要である。

【図19 読解問題に関する日本文化・日本事情の説明】



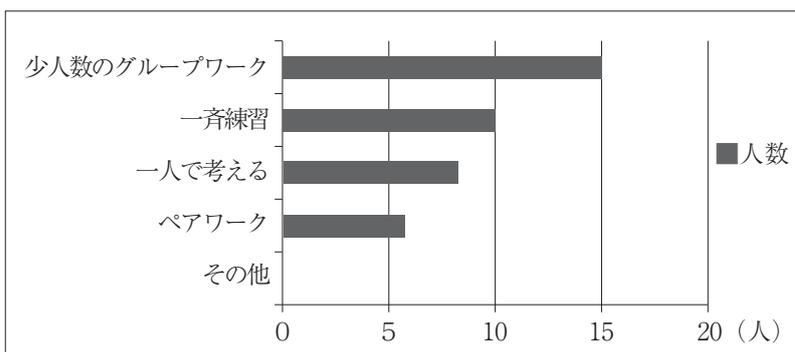
【図20 聴解問題に関する日本文化・日本事情の説明】



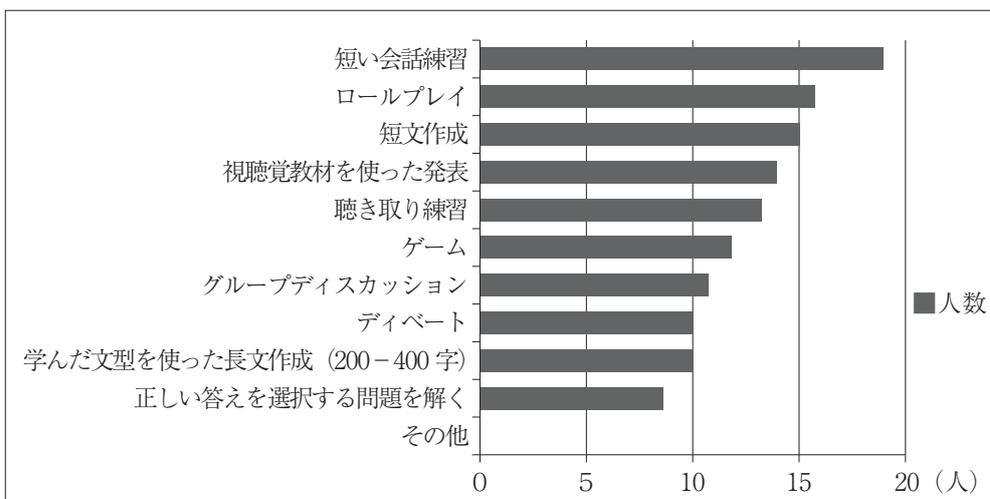
4. 4 教室活動に対する要望

中級レベルの総合教科書では、課で提示された文型・表現を用いて短文を作成するのが一般的である。こうした教室活動について学習者がどのように感じているかを調査し、まとめた結果が【図21】【図22】である。

【図21 どのような勉強の仕方が好きか（複数回答可）】



【図22 文型練習で取り入れた方がいい活動は何か（複数回答可）】



短文作成練習に加えて、学習者は初級レベルと同様に学習する文型・表現を短い会話形式で練習することや、ゲーム要素を取り入れて練習することも望んでいる。さらに、長い文章を書く練習を通じて、学習する文型・表現がどのように用いられるかを学びたいという要望も強く持っていることが明らかになった。教師は初級レベルでよく行われている教室活動、および教室の雰囲気作りを中級レベルでも継続しつつ、学習する文型・表現を比較的長い文章でも用いる作文練習を意識化していく必要がある。

4.5 自由記述回答について

中級の学習で困難を感じていること、中級の教科書に対する要望、中級の教え方に対する要望の3点について、自由に記述してもらった。前節で言及できなかった点をまとめると以下のようになる。

<中級の学習で困難を感じていること>

(1) 漢字

例：漢字の読み方／漢字の授業をもっと体系的にして、覚えるコツとか仕組み、漢字の音について授業をしてほしい／漢字を覚えるのが難しい

(2) 敬語

例：相手や状況によって尊敬語と丁寧語と謙譲語を使い分けること／ぞんざいな言葉を楽に使

えるように練習できる時間がほしい

(3) 語彙

例：方言や略語／固有名詞／専門分野の語彙を早く学びたい／擬音語，擬態語

(4) 自分の意見を正確に伝えること

例：自分の意思を日本語で正確に相手に伝えること／人と会話する時，相手の意味がわかっているにもかかわらず，自分の考えや意見を述べられないこと／単語は知っているのに，文の意味は理解できない時がある／自分のレベルに自信が持てないため，他の学生と話したりするのが難しく感じる／作文が一番難しい

<中級の教科書に対する要望>

(1) 文法

例：わかりやすい説明／練習問題を増やす／より多くの例文をつける／教科書の内容が多い／日常で使える例を増やす／いろいろな状況がある練習／初級ともっとつながりを持つようにする

(2) 語彙

例：辞書に載っていないがよく使われる言葉を取り上げる

(3) 会話

例：もっと日常会話を増やす／話す時間を増やす

(4) その他：

「メイン教材とサブ教材があって，メイン教材では理論的なところを主に勉強し，サブ教材には学んだ内容についての面白いエピソード，新しく学んだ表現を使った言葉（ことわざ，名言など），歌，関連主題のウェブサイトなどが載っていたらいいと思います。そして授業時間外でもそういう資料を自分で探しながら本を通してだけでなく，多様なやり方で学んだ内容を復習できたらいいと思います。」

<中級の教え方に対する要望>

練習方法・時間の使い方

例：会話や発表の時間を増やす／学生たちが話す機会を増やす／学んだことを直接話したり，書いたりする時間を増やす／教科書の中の文法をもっと生活に近い例にする／習った文型で長い文を書く方法を教える／例文を作る練習を増やす／もっと効率的な勉強方法があったら教えてほしい

敬語，語彙，漢字の学習に困難を感じていることは許・鶴町（2009）にも言及があり，中級レベルの学習者が共通して抱える問題である。中級レベルの学習項目の選定，および教授法についてはさらなる検討が必要である。

5. おわりに

初級に比べ，中級以降の学習項目および教室活動の検討は立ち遅れている。上級までの日本語学習を目指す留学生が増えるなか，初級，中級，上級と段階的・体系的に学べる学習項目の早急な検討が必要である。

従来，中級レベルはそこに配置される学習者の背景が多様で，授業の目標があいまいになるこ

とが指摘されてきた。これは教授者側から見た問題点であるが、アンケート調査を通じて学習者側から問題点を見ると、授業目標があいまいなのは学習項目を体系的に整理できておらず、実情に合った形で学習項目を選んでいないからではないかという疑問が投げかけられる。

上級までの言語習得を視野に入れた高等教育機関で学ぶ学習者の多くが、文法・文型、語彙を段階的、かつ体系的に学ぶことを希望しており、アカデミックな場面での日本語も日常生活での日本語も必要としていることを考慮すると、それぞれの状況で必要とされる文型、語彙は何かをコーパスなどをもとに調査し、従来の学習項目を洗い直す検討を行っていくことが今後の課題になるだろう。

注

- (1)ミャンマーの学習者は、国費教員研修留学生プログラムで来日した留学生である。自国の中等教育機関の現職教員であり、日本の大学において学校教育に関する研究を行うことを留学の目的としているため、「研究生あるいは大学院生」として分類した。
- (2)中国語訳には経済学部3回生馬唯佳氏、韓国語訳には工学部2回生金善右氏の協力を得た(2011年12月調査時)。記してお礼申し上げます。
- (3)「中級の学習で一番難しいこと／困っていることは何か」という自由記述の質問に対し、「各課の語彙や文法がかなり多いので、授業を数回休むとついて行くのが大変である。(中級2学習者)」「各課のペースが非常に速かった。初級レベルの日本語は4カ月で学んだが、中級レベルは2カ月だった。また漢字を学ぶことも問題となったため、覚えるべき単語の数がものすごく増えた。多くの単語が同じように聞こえ出して混乱した。さらに発音も難しかった。(上級学習者)」といった回答もある。

【引用文献】

- 小林ミナ (2005) 「コミュニケーションに役立つ日本語文法」野田尚史 (編) 『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版, pp.23-41.
- (2009) 「—過去から現在へ—文法研究と文法教育」水谷修 (監修) 『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻「文法」』凡人社, pp.18-37.
- 野田尚史 (2005) 「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」野田尚史 (編) 『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版, pp.1-20.
- 許明子・鶴町佳子 (2009) 「日本語学習者の中級レベル観—中級文法クラスを受講した学生の意識調査を中心に—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』24, pp.19-36.